一般社団法人ペットフード協会
2014 年度　全国犬・猫飼育実態調査から

一般社団法人ペットフード協会はペットフードの事業者を中心とした100 社（正会員66 社、賛助会員34 社）によって組織されており、毎年、犬・猫の飼育率や飼育頭数、平均寿命、飼い主の意識等について調査を行っています。今回発表された2013 年（平成25 年）度の実態調査結果から主なものを紹介します。

■調査方法：インターネット調査　　■調査地域：全国（沖縄県含む）
■対象者条件：20 ～ 69歳の男女個人 50,265 サンプルから

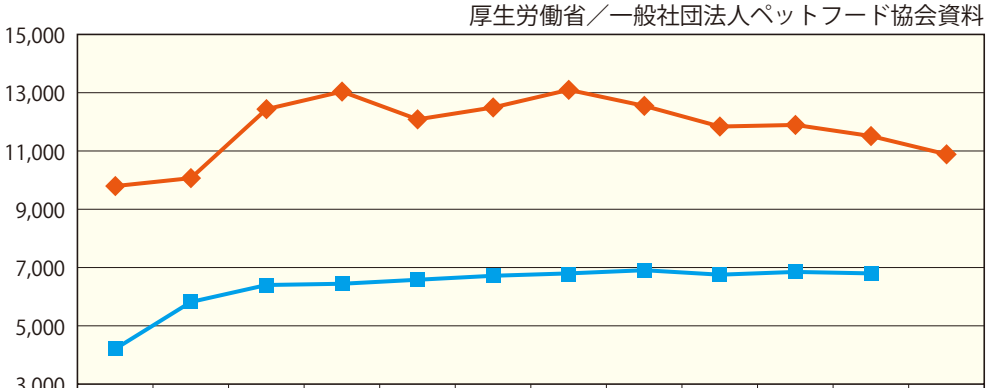
1．全国犬・猫 推計飼育頭数

犬の2013 年頭数は10,872 千頭で2008 年をピークに減少傾向にあります。猫は9,743 千頭で2008 年の頭数（10,890 千頭）に比べると減少していますが、2010 年からはほぼ同じ頭数で推移しています。

犬の場合、狂犬病予防法に基づく「登録頭数」も参考に記していますが、実際の飼育頭数はペットフード協会が調査公開している頭数が実数に近いと考えられています。

●犬 飼育頭数の推移

厚生労働省／一般社団法人ペットフード協会資料

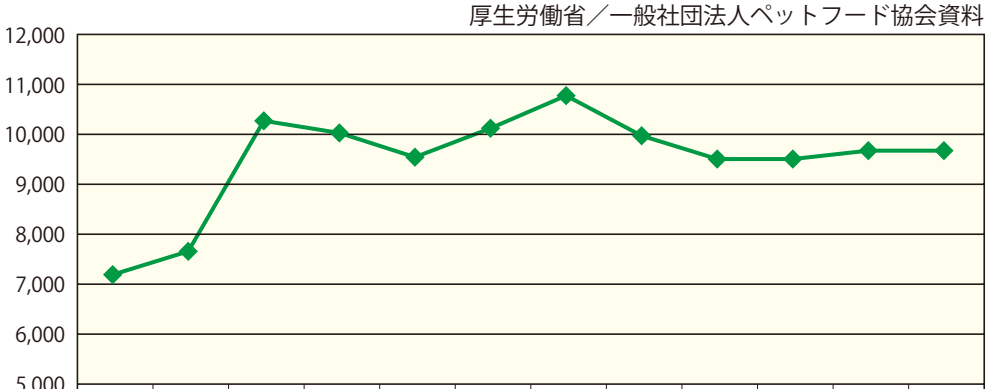


	1995	2000	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
推定飼育頭数	9,805	10,054	12,457	13,068	12,089	12,522	13,101	12,522	11,861	11,936	11,534	10,872
登録頭数	4,224	5,779	6,394	6,480	6,636	6,740	6,805	6,881	6,778	6,852	6,786	

（単位：千頭）

●猫 飼育頭数の推移

厚生労働省／一般社団法人ペットフード協会資料



	1995	2000	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
猫	7,237	7,718	10,369	10,085	9,596	10,189	10,890	10,021	9,612	9,606	9,748	9,743

（単位：千頭）

2. 犬猫の年代別現在飼育状況

年代別での飼育状況をみると、50 歳～ 60 歳代での犬及び猫の飼育率が最も高い結果となっています。逆に30 歳代では犬及び猫の飼育率が最も低くなっています。

一般社団法人ペットフード協会資料

		全年代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代
犬	2013 年	15.8%	15.1%	12.7%	15.1%	20.0%	16.4%
	2012 年	16.8%	14.8%	13.3%	16.1%	21.4%	18.2%
猫	2013 年	10.1%	9.0%	9.0%	9.8%	11.8%	10.9%
	2012 年	10.2%	9.1%	9.0%	9.8%	11.8%	10.9%

3. 犬・猫平均寿命

犬全体の平均寿命は 14.2 歳、猫は室内飼育の場合は 16.0 歳、猫全体の平均では 15.0 歳 となっています。以前に比べるとずいぶん寿命が延びてきていることがわかります。

●犬・猫の寿命　《2013 年度 一般社団法人ペットフード協会調査》

- **犬 14.2 歳**　超小型犬、小型犬の寿命は長い
- **猫 16.0 歳**　※完全室内飼育の場合
  「家の外に出る」猫は 13.2 歳
  猫全体では 15.0 歳

《2002 年 8 月～2003 年 7 月　東京農工大学・林谷秀樹准教授の調査》

- **犬 11.9 歳**　（1990 年の調査では 8.6 歳）
- **猫 9.9 歳**　（　〃　5.1 歳）

4. 2013 年度及び 2012 年度の 飼育意向率

今後犬や猫を飼育したいかどうかを聞いた「飼育意向」では、犬を飼育したいと考えている人は 26.8%、猫は 16.8% と、昨年から減少傾向にあります。飼育意向のある方々が犬あるいは猫を飼育できるような環境整備やサービスの向上が必要といえます。

一般社団法人ペットフード協会資料

	犬	猫
2013 年度飼育意向率	26.8%	16.8%
2012 年度飼育意向率	30.4%	18.2%

今回の調査では、特に犬の飼育頭数、飼育意向の減少が顕著にあらわれてきました。犬猫に関連する様々な問題の低減・解決を図るのと同時に、ペットを家族の一員として、パートナーとして迎えて暮らすことの楽しさを動物医療業界全体で協力し多くの人に伝えていく必要があります。